

世界文化遺産 姫路城 中曲輪バタフライガーデン創造事業

－ 400年前の蝶の飛び交う城下の風景の再現を目指して －

実施担当者 姫路市立白鷺小中学校
主査 風見 智広



1 はじめに

姫路市立白鷺小中学校と兵庫県立姫路聴覚特別支援学校は、世界文化遺産（国宝）姫路城の中堀内側にあたる中曲輪（特別史跡内）にあります。学校の周囲は中堀の石垣で囲まれ、また目の前には姫路城の凛とした姿を目にすることができます。

姫路市では市制100周年を迎えた平成元(1989)年4月に『市蝶 ジャコウアゲハ』と『市鳥 シラサギ』を制定しました。これは姫路市でも都市化が進み自然環境が変化していく中、自然に関心をもって昆虫や鳥に親しみ、自然保護の意識を高め、培っていくために選定されたものです。

ジャコウアゲハは、そのサナギが「播州皿屋敷」のお菊の化身とされ、戦前には姫路城内やお菊神社で売られていたこともあります。サナギの形が後ろ手に縛られたお菊の姿に似て、口紅を付けたような赤い斑点もあります。

姫路城にはお菊が投げ入れられたとされる「お菊井戸」があり、まわりは石柵で囲まれ、上面は金網でおおわれています。戦前は手入れが行き届いていなかったために、井戸の周りに木々が茂り妖異な雰囲気であつたらしいです。それが皿屋敷伝説と結びつき、お菊虫の話になったのではないかと思います。

また中国では、紀元前から絹糸で胸を他物にささえるアゲハチョウ科のサナギのことを、首をくくって自殺した女性の姿に見立て「緋女」とよんでいたらしいです。

このような歴史的な逸話もあり、ジャコウアゲハと姫路市の関係には非常にロマンがあります。

白鷺小中学校と姫路聴覚特別支援学校の協働した取り組みは2年目を迎えました。

1年目は主に2校の敷地内において食草スポットを設置しました。また地域にも飛び出し、姫路城をはじめ中曲輪（姫路市本町68番地にあたる内堀と中堀の間）にある保育園、県立高校、私立学校、諸団体、企業、行政機関、医療センターなどと協働することで、約22ヶ所に食草ポイントを設置することができました。

2年目の今年度は校内のビオトープ（バタフライガーデン）のさらなる充実と中曲輪から外曲輪（中堀と外堀の間）へとバタフライガーデンのエリアの拡大を計画しました。

地元の公民館・公園への植栽や、JR姫路駅～姫路城の大手前通りにある企業とコラボすることで、食草スポットを増やし、ジャコウアゲハの飛び交う空間を広げることができないかと考えました。

2 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業への取り組み

2-1 姫路聴覚特別支援学校での実践

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校
臨時講師 大西 真央

本校は、姫路市に在りながらも県立の学校であり、姫路市外から通っている児童が半数以上在籍しています。ですが、社会科の学習では姫路市の町について学ぶ機会があり、新一年生の歓迎行事には姫路城周辺の公園へ訪れ、毎日の通学では姫路城を目にしない日はありません。子どもたちの生活とは切っても切れない姫路城が、たくさんのジャコウアゲハで彩られる日が訪れたら、子どもたちの生活にも今以上に彩を与えてくれることでしょう。

例年、本校の3年生が理科の学習を兼ねて、ウマノズクサを育て、ジャコウアゲハの観察をさせていただいています。本年度の3年生は一名。たった一人ですが、その分「自分が育てる！」という気持ちと関心が強く、ウマノズクサの様子を毎日のように確認し、葉をめくっては「卵がついていないかな。」とジャコウアゲハの訪れを楽しみにしていました。

卵の頃からお世話をし、自分が育てたウマノズクサを幼虫にやり、独特な形をしたサナギから漆黒の美しい蝶が生まれるのを見届けたときは、わが子が巣立っていく親のような気持ちだったにちがいません。少し名残り惜しそうな表情で虫かごを開けながらも、チョウが校舎より高く羽ばたいていく様子を最後まで目で追い、見えなくなるまで「ばいばい！元気でね！」と繰り返し叫んでいました。



また、本校では、子どもたちがいつも遊んでいるテラスにウマノズクサのプランターを設置していました。今年は10株とたくさんいただいたこともあり、そこに呼び寄せられたジャコウアゲハ、生まれた幼虫は数え切れません。育てているのは3年生だけでしたが、他の児童もジャコウアゲハや幼虫を目にすることになりました。見慣れない虫に興味を惹きつけられた子どもたち。ジャコウアゲハを通して、校内でも学年を超えた交流を深めることができました。

(右二枚は一年生の児童)



白鷺小中学校との交流で、姫路城付近にウマノズクサの植栽をしに行く機会がありました。移動中、ふと目に入った姫路城に私が一言「お城きれいだね」と児童に声をかけると、返ってきた言葉に私は心を打たれました。「そうだね。ここにジャコウアゲハがいたらもっときれいだろうね」彼が言ったこの一言は、まさにこのプロジェクトの目的そのものだったからです。一年かけて参加させていただいた何よりの成果であること、心からそういう気持ちで参加できていたことを大変うれしく思いました。彼の思いがまた次の子どもたちに繋がることを願っています。

2-2 白鷺小中学校での実践

姫路市立白鷺小中学校
教諭 山口 智史 主査 風見 智広

① 小学部3年生の学習（総合的な学習の時間）



コミュニティ・スクールコーディネーターの先生から地域の歴史や姫路城とジャコウアゲハの関係について学びました。教室ではみんなで活動について意見を出し合いました。

② 運動場でのウマノズクサ育成基地づくり



しらさぎの小径沿いに食草のプランターを120設置しました！！当日は地元のTV局も取材に駆け付けてくれました。事前準備にはPTA・地域ボランティアにも協力いただきました。

③ 中曲輪および外曲輪にある協働団体への食草の提供と植栽



3 まとめ

助成の2年目を迎え、当初の目的であるジャコウアゲハの個体数も目に見えて増えてきました。子どもたちにとってジャコウアゲハが飛んでいる風景が当たり前になりつつあります。

～子どもたちの感想から～

- ・食草の植栽が楽しかった。成長が楽しみです。
- ・幼虫がサナギになる瞬間が面白かった。
- ・サナギが蝶になる瞬間を見ることができた。とても美しかった。
- ・成虫が卵を産むところを見て、驚いた。
- ・幼虫がサナギを食べているのを発見した。
- ・自宅の近くでジャコウアゲハが飛んでいるのを見た。



日常生活の中で生命のダイナミズムの瞬間に立ち会い、感動したり、疑問を感じたり、体験的に探究していくことで、いつの間にか地域や生命についても考え始めているようでした。今後は受け継いだバトンを次の学年につなげていくことで地域の願いや思いを伝えてほしいです。

義務教育学校の特徴を生かして、8年生が英語の観光案内パンフレットを作成し、後輩たちの活動を広報するなど、姫路城中曲輪バタフライガーデンを『地域資源として価値づける』、新たな展開にも繋がりがつつあります。当初はエリアを広げるために地域の諸団体等と協働しました。それが多くの団体が少しずつ関わることで、人が代わっても持続可能な体制を整えることにつながっていきました。

謝辞

『姫路城中曲輪バタフライガーデン』の取り組みは2018年から本格的に始めました。中谷医工計測技術振興財団さんのプログラム助成でご支援いただいたおかげで、全国の中でも『教育×環境×地域×観光』をテーマとした先進的な取り組みを行うことができました。

この取り組みが評価され、2020年度には（公財）博報堂教育財団『第51回 博報賞』、兵庫県教育委員会『グリーンスクール表彰』、（公財）安藤スポーツ・食文化振興財団『トムソーヤースクール企画コンテスト 努力賞』を受賞しました。また兵庫県の『ひょうごの生物多様性保全プロジェクト』に選定され県のプロジェクトとして広く広報されました。

2021年度は、兵庫県の『令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動 優秀賞』、兵庫県の『第23回 人間サイズのまちづくり 奨励賞』、環境省の『第9回グッドライフアワード 環境地域ブランディング賞』、国土交通省『令和3年度手づくり郷土賞』、（公財）日本生態系協会の『全国学校・園庭ビオトープコンクール2021 国土交通大臣賞』を受賞いたしました。

今後も学校・PTA・地域が協働しながら身近な豊かな自然を次世代に残せるよう努めていきます。

協働した団体・事業所等

賢明女子学院 淳心学院 白鷺保育園グループ 姫路東高校 姫路北高校 大原学園姫路校
姫路護国神社 播磨の国総社 姫路神社 十二所神社（お菊神社） 姫路カトリック教会 イーグレ姫路
姫路医療センター 姫路東消防署 姫路市役所中央支所 姫路城管理事務所 城内図書館
姫路総合教育センター 姫路市立美術館 市民会館 大手前交番 姫路市立動物園 姫路市立好古園
大手前茶屋 姫路市役所観光振興課 城南公民館 城巽公民館 城南連合自治会（塩町公園） 城巽連合自治会（城巽公園、総社公園） 白鷺学校運営協議会 白鷺小中学校 PTA 姫路ジャコウアゲハ倶楽部
神姫バス姫路営業所 しらさぎ大和会館 三菱電機姫路製作所 三井住友信託銀行姫路支店 坂元電気
その他（地元の商店や飲食店など）

参考文献

1) 「ジャコウアゲハ（お菊虫）と播州皿屋敷の民俗文化誌」相坂耕作（著）赤松の郷昆虫文化課館（播磨昆虫民俗資料館）（編）姫路城下町街づくり協議会（発）